◀ 巻 頭 言 ▶

“新年のご挨拶”

会長・理事　四　方　哲　郎

海陸また海外でご活躍の会員並びに日頃ご支援頂いております関係先の皆様方に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の１月１日 16：10 に発生した能登半島地震には驚きましたが、復興途中の９月には大雨による被害の拡大が報道されており、現地の１日も早い復興を願っております。

また、８月８日には日向灘地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報が発表されたことで影響を受けた方もおられると思います。約１週間後の８月 15 日には特段の変化が見られないことなどから特別な注意を呼び掛ける期間が終了しましたが、普段からの地震に対する備えは必要です。スマトラ地震や阪神・淡路大震災時に乗船していた方に聞いたことがありますが、航行中であればショックを感じる程度（ブリッジと機関室で何が起こったかは確認したそうですが）とのことでした。日本の多数の LNG 基地では津波に備え、“Standards For Countermeasures In The Event Of An Earthquake”, “The Procedure for Emergency Unberthing of LNG Tankers under Tsunami Warning” を着桟予定の本船に事前に送付しており、緊急離桟訓練も船陸協力して定期的に実施しております。

地球温暖化（Global Warming）で酷暑が続き、海水温度の上昇もあって台風の発生・移動も変わってきているようです。

機関士にとって GHG（Greenhouse Gas：温室効果ガス）削減対策のうち一番関係があるのは新燃料への対応と考えています。新燃料船は増加傾向にあるようですが、将来の方向を考慮して LNG の二元燃料が現状多く採用されている模様です。

LNG 燃料機関は LNG 船で採用されて初期トラブルもあったと聞いておりますが、実績を積んできており現状安定していると思っておりました。ところが、MAN が規制の強化を見越して ME-GA から撤退することに驚いております。

環境規制では、EU ETS に続き本年１月１日から船舶燃料の単位当たりの GHG 排出量「GHG 強度」に上限を設ける規制で上限を超えた場合に罰金を払う必要のある Fuel Eu Maritime が開始され、CII の格付けも一段と厳しくなります。

更に、新燃料として現状アンモニアとメタノールが有力候補となっており、当協会としても技術講演会の場で将来燃料について講演をいただいております。

昨年 11 月には「舶用アンモニア燃料 DF エンジンのご紹介」という演題で株式会社 IHI 原動機殿に講演いただいたのち、アンモニア燃料機関「６L28ADF」を搭載

して実証運航中のタグボート「魁」について日本郵船株式会社殿に説明を頂きました。機関士としては実際に運転している機関の情報が必要ですので、2026年度竣工を目指しているアンモニア燃料アンモニア輸送船についても情報を提供頂いてマリンエンジニア等で共有致したいと考えております。

今年2月21日には、阪神地区（神戸）での技術講演会として、「ヤンマーLNG－DF機関の紹介」という演題でヤンマーパワーテクノロジー株式会社殿の講演を予定しておりますので参加の検討をお願い致します。

新規エンジンの情報は当然必要ですが、最近タービン船で、主ボイラ及びタービン主機の経験不足によるオペレーションの重大トラブルが発生したとのことが聞こえてきております。タービン船につきましてはメーカー技師の確保も困難になってきており、また、外国人配乗も増加している関係で、私たちの時代には考えられないことが起こっているようで、事故防止対策の考慮が必要と考えております。三十数年前の機関課に勤務中、トラブルが起こった際に先輩から“乗組員を悪いことにするのが一番簡単だが、誰が乗船してもトラブルが起きないシステムを作ることが我々の仕事”と言われたことが、当時“俺が乗っていれば事故は起こさない”というグレート機関長が多くおられた頃のことで、非常に印象に残っており、今でも肝に銘じております。

トランプ氏が大統領に就任して環境問題への影響もあるかと思いますが、フーシ派の攻撃による紅海通航回避が継続しており、イスラエルとの紛争がどうなるか、イランへの圧力を強めることによるホルムズ海峡の安全通航がどうなるか等が危惧されるところです。

イラン・イラク戦争当時の1985年に海上復帰し、「海上転籍者はペルシャ湾航路に乗船せよ（今ならパワハラでしょうが）」とのことでLPG船に乗船しました。家内からは「子供が生まれたところなのになんでそんな危ないところに行くの」と言われました。実際、インド洋で、シンガポールに修繕に向かうと思われる居住区の焼けた船を何回か見かけたこともありました。夜間に船団を組んで遅い船に合わせるのでかえって危ないかなとも思いましたが、特に危険と思われることにも会わずに済みました。次の船は自動車船で、欧州からペルシャ湾に向かいましたが、本社からの指示で甲板部が船体に日の丸を塗装し、現地の人に「これは何か知っているか」と聞いたところ、一言“Target”と言われて納得してしまいました。機関室にいるときに攻撃されたら“Bunker station”から逃げるしかないのかと考えたりしておりました。

陸上勤務及び出向時、主に中東方面でしたが、他にインドネシア等、海外危険情報の出ている地域に多く出張しました。その都度、「出張者から見て現地は普段通りに思えた。」と報告していましたが、周りには心配かけたと申し訳なく思っております。特に家族には感謝しかありません。

今年こそは世界中の紛争が終結し、平和な世界が戻ることを願っております。

最後になりますが、会員諸兄及びご家族と関係各位のご多幸と船舶のご安航を祈念し新年の挨拶といたします。